

平成29年度第1回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会 議事録

- | | |
|-------|--|
| ■開催日時 | 平成29年8月4日(金) 午前10時00分～ |
| ■開催場所 | 四條畷市役所 東別館2階 202会議室 |
| ■出席者 | (委員)
平井 拓己、坂本 知久、松川 圭一、高見 耕示、藤本 正次、中井 春夫、
小宮 宮子、堀 潤治、北田 澄子

(事務局)
市民生活部 産業観光課 |
| ■次第 | 1 産業振興ビジョンの改訂に係る素案の検討について
2 その他 |

【平井委員長】

それでは皆様、ただいまから平成29年度第1回四條畷市産業振興ビジョン推進協議会を開催したいと思います。

本日は皆様、お忙しいなか、また、お暑いなか、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私、本協議会の委員長を拝命させていただいておりますプール学院大学の平井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、会議に入る前に、本協議会の委員構成に変更がございましたので、ご報告いたします。

まず、前任、「四條畷市文化観光協議会」の梶川様が変わりまして、今回より堀様にご出席いただいておりますので、堀様、簡単で結構ですので、一言ご挨拶を頂戴できますでしょうか。

【堀委員】

皆様、こんにちは。文化観光協議会で会長を拝命させて頂いております堀潤治と申します。この産業振興ビジョン推進協議会に関しまして、前会長の梶川様より引き継いで出席させて頂くことになりました。この中では年齢が一番若いのですが、産業振興ビジョンの策定において、良いものが出来ればいいなど、また、皆様から色々なことを学ばせて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【平井委員長】

堀様、ありがとうございます。

それでは、次第に入る前に、1点のご報告を申し上げます。

昨年度、皆様にお集まりいただき、色々と議論をお願いしてきた訳ですが、市長が交代されたということで、去る7月24日(月)に、協議会代表で東市長と懇談の場を持たせて頂きました。

冒頭、産業振興ビジョン改訂の延期に関してお詫びを頂き、市長自身の産業振興に対する考えをお聞かせ頂くなかで、産業振興に対する非常に強い思いをお持ちであるということ、また、民間企業の経験があるということで現場の意見を聞くことに注力されている印象を受けました。

そのようなことも踏まえて、今後ますます協議会の役割が重要になるのではないかと。これからの議論において、新しい発想も入れて進めていきたいと感じておりますので、協議会の委員皆様から積極的

にご意見を頂き、より前向きに協議して参りたいと存じます。

【平井委員長】

少し順番が前後しましたが、本日、事務局からの出席者をご紹介します。

【事務局（山本部長・西岡課長・鈴木課長代理）】

西尾部長の後任として着任いたしました山本でございます、よろしくお願いいたします。

産業観光課課長の西岡でございます、よろしくお願いいたします。

産業観光課課長代理の鈴木でございます、よろしくお願いいたします。

【事務局（山本部長）】

今年度より市施策の推進にあたり様々なアドバイスを頂いております特別参与の鷺見様です。本日はオブザーバーで出席を頂いておりますので、ご紹介させていただきます。

【鷺見特別参与】

6月から就任いたしました鷺見です、本日はオブザーバーとして出席させていただきます。産業観光課と一緒に、他の分野も含めた産業振興ビジョンの策定に向けて協力させていただきますので、皆様との良い関係を含め、今後の四條畷が発展していけるよう考えて参りますので、よろしくお願いいたします。

【平井委員長】

それでは本題に入らせて頂きます。

皆様のお手元に次第がありますので、そちらに沿ってということで、次第1、こちらがメインとなる訳ですが、産業振興ビジョンの改訂に係る素案の検討について、事務局から内容のご説明をお願いいたします。

（事務局より、これまでの策定方針・産業振興ビジョン素案（案）内容について、説明あり）

【平井委員長】

非常に多くの資料をご説明いただき、ありがとうございました。

ただ今、策定方針、産業振興ビジョン素案（案）について事務局より説明を頂きました。記載内容に修正を加えるべき点や考え方のもの、どのような部分でも結構ですので皆様からご意見を頂ければと思います。

【堀委員】

農業について見ると、「生産すること」へ考え方が向き過ぎているのではと思います。都市近郊の農業を考えた時に、生産ばかりではなく他にも色々な方法があるのではないのでしょうか。そもそも、なぜ生産が増えないのかというと、四條畷では地主も多く、農業に頼らずとも生活していける現状があります。現時点で西部地域と東部地域の2つにそれぞれの状況があります。市街化区域では特に小規模な農地も多く、次の後継者を考えたとき、2022年の生産緑地解除に伴い宅地化が進行すること、逆に東部地域では農地が遊休化していくという問題があります。これら2つの問題を分けて考え、どのように活用すれば農地を残していけるのかを考えていかなければならないと思います。都市部は、生産でなくとも十分に活用が図れるでしょうし、特に駅から徒歩で行ける範囲にあるので、そのような利点を活かしていくべきではないのでしょうか。

【平井委員長】

ありがとうございます。農業に対するご意見でしたが、藤本委員、中井委員ほか皆様はいかがでしょうか。

【中井委員】

農協と我々農業者の立場はまた少し違うのですけども、課題は沢山あります。後継者の問題、遊休地の問題、これすべてマイナス面の要素でして、その辺りをこの先どのようにして解消していくか色々と考えております。

【平井委員長】

やはり、せっかく環境も変わりつつあるところですから、何か新しい発想なども実現できやすいのかなと期待していますが。

【中井委員】

そうですね、特産品が生まれれば、また違うのでしょうか。農業に対する魅力ですね、これから農業すれば儲かるということでも良いですし、観光農園で農地が大きく変わるということも良いですし。その辺りも含めて、世間で言われている道の駅なども含めて考えていく必要があるのではないのでしょうか。

【平井委員長】

どのように販売まで繋げるのかですよ。他にご意見はいかがですか。

【藤本委員】

遊休農地の解消については、どうしても利便性の悪い田んぼ、小規模の田んぼは効率性が悪いし、まだまだこれから増えてくると思います。個人で機械を持つことが大変なので、農協や行政で共同所有する、あと、一筆あたりの面積を増やして規模を大きくしなければ経営が難しいので耕地整理など。

【平井委員長】

今のニーズを見たときにイノシシの駆除も重要ですが、ビジョンを議論する中では中長期的なことも考えていかなければならないと思います。

【坂本委員】

先ほど堀委員からもご指摘を頂きましたが、やはり今後、市街化区域の生産緑地解除が大きな課題になってくると思いますし、地主さんは農業で稼がなくても生活できるという人がほとんどなので、その方々に農地を維持してもらうために、どういった取組みをすべきか、将来を見据えて策定しなければならないと思います。収穫体験という取組みも市街化区域の農地を維持していく一つの策ではないでしょうか、また、市民農園や体験農園のようなことを利便性の高い場所で行うのも一つの方法だと思いますが、どういった仕組みで、だれが運営していくのかをきっちり策定していく必要があるのではないかと思います。

【平井委員長】

他市でこういった産業振興を考える際に、農業に関して意見を交えることがないので、とてもユニークであると感じていますが、他の分野とも関わってくる非常に大切な部分でもあると思います。

申し遅れましたが、本日はビジョンの素案（案）ですので自由闊達にご議論いただければと思っておりますし、現場でこの計画を考えている事務局の皆さんからもご発言を頂ければと思います。

また、一般的に産業振興ビジョンといえ、いわゆる商工業を中心に据える自治体が多いと思うのですが、その観点からはいかがでしょうか。

【高見委員】

商工業の分野は、現状では課題を解決していくために時間が必要だと思います。農業に関連して少し話しは違いますが、販売に向けた6次産業化は、今後10兆円規模の産業になっていくという話があります。そういった展示会へ初めて出展するのですが、四條畷には資源もあるので、この辺りにも力を入れていけば良いのではないかと思います。6次化エクスポがインテックス大阪で開かれる予定で、そういう取り組みをするにあたって、農作物を生産し、加工して流通までもっていくというのが6次産業化であるが、それをするためには機械も必要であろうしパッケージングも必要であろうし、そういうことが市内で賄えたら良いと思います。

【堀委員】

私も6次産業化はすべきだと思いますが、農業者は高齢で、この時期、夏バテに注意しながら生産するだけでも大変で、農業を進めていくうえで、もちろん他の産業も同様なのですが、当事者が進めていかなければならないので、現場に若い人材や新しい発想を持った人々を中心に、例えば先ほどの機械の不足に関しても、余っているところから借りるといった地域のネットワークを創りながら進めていくことが必要であると思っていて、先ほどの話しにもありましたが、遊休地が増えていくのであれば、例えば古民家に貸出して、それに対するサポートをしつつ若者を呼び込んで都市近郊の可能性を上げていく必要があるのではないかと思います。また、6次産業を行っているところも沢山あるのでブランディング・特色を出さないといけない、例えば、この小さい四條畷において、一つの作物を皆で作るとするのは難しいので、一つのアイデアとして、四條畷が馬飼いの里と言われているのであれば、馬の堆肥を使った農業を盛んにしていく、生産物が少ないのであれば、四條畷市からあえて外に出さないことで人が訪れるまちに繋がる、そういうようなことも進めていかなければならないと思います。あと、生産者が減っているにも関わらず、一般的に野菜を育てる人が増えているということで、そのなかで余った野菜を交換できたり、それが販売できたり、道の駅ぐらいの規模になると大変なのですが、もっと簡易に販売できる場所があれば面白くなると思いますし、そこで商品が売れたとなれば、さらに活性化していくと思います。現状では、農協さんが大東の方で朝一を実施されていると思いますが、木曜日の固定で毎週出さないとお荷できないのでしょうか。

【坂本委員】

基本的には、そのようにお願いしている訳ですが、今、農協の課題として直売所をどこかに、小規模でも良いから、いつでも持ってきて頂いて販売できるようなことを、現時点では全く形はできていないのですが、将来、そういうことを大阪東部農協でやっていこうという話しが上がってきているところですので、もしそれができれば、作っていただいている方が登録してもらうことで、いつでも持込みして販売できるという発信になるかも知れない。ただそれは何年先になるのか、はっきり見えていないので細かく説明はできませんが、そういうことも将来やっていきたいと考えていますし、今すぐであれば、例えば商店街の一角を活用するなど、一つの案としては良いのではないのでしょうか。

【平井委員長】

今回のビジョンの位置付けは、大きな10年後の方向付けという趣旨が非常に強く、具体的な施策はアクションプランで定めることになるため、そういう方向性が毎年の事業でどのように実現されていくのかということですが、ちょうど産直などについて、消費者の立場からご意見はいかがでしょうか。

【北田委員】

とにかく食べ物は私たちの基本ですから、安全で安くて美味しいものを確保したいというのは皆が一緒だと思うのですが、ただ、補助金等で運営していても、それが何年間かで打ち切られるとそれで終わってしまう訳ですよね、せっかく今までも良いことがあったのですが。やはり長期性という視点も考えてもらいたいと思います。

【平井委員長】

なかなか10年20年の長期にわたる補助金というものは無いですから、自律的に運営していくという仕組みも必要になってきます。そこから商店街の話しに繋がりたいと思うのですが、その辺り、商業の立場から何かご意見を頂けませんでしょうか。

【松川委員】

産直の話しについて、やはり定期的に商品が入ってこない、店舗を運営することはなかなか難しいのではないかと思います。また、今日は商品があるが明日はないとなればお客さんの集客に繋がらないとも思います。商店街では人の動きがあるが、そこで買うのかとなれば、結局はいつものお店で買うと思うので、それでは意味がなく、ですので、道の駅では必ず商品を入れており集客があると思います。

また、農業は田原が中心ですが、楠公や忍ヶ丘でどれほど認知度があるのかということを見ると、空き店舗を活用して地元の農作物の情報やそれらを使ったメニューの情報提供など、情報発信の場所として店舗を利用することも良いのではないのでしょうか。

【平井委員長】

そうですね、地元で暮らしている方でも地元で何をやっているのか知らないことも多いですから。そういう意味では魅力発信という部分もありますし、地域資源を発掘するという発想も求められてくるとは思います。

【松川委員】

特に最近では、栄養に関する興味を持たれる方も多いので、野菜の栄養素うんぬんを含めて大学の学生さんに来てもらって勉強会を実施するなどの取組みも良いのではないのでしょうか。

【平井委員長】

担い手の問題も先ほどから出ていますが、私の学校は堺市にあり、色々なプロジェクトのなかで田んぼを借りて有機農法での米作りをしているのですが、学生たちは暑い中でも田植えや草刈りをきっちりとやっているのです。それで出来たお米を使って何か料理を作ろうと奮闘しているのですが、皆も意外と楽しんで実践しています。それから、保育学科の学生であれば、園児と芋掘りをするために小さな菜園を作っていますが、やはり慣れ親しむ機会があれば若い人は集まってくると思います。

それから、この協議会では観光やプロモーションの話しも議論されてきましたが、その視点を含めて今までの取組みやこれからの新しい方向性などについてご意見はありませんでしょうか。

【小宮委員】

アンケート調査に重要度・満足度の相関図がありましたが、そのなかで観光が満足度も重要度も低いという結果を見て、少し残念に感じました。例えば歴史、憩いの場、自然といったものが四條畷の魅せる部分であって、こういったものは必要と感じられにくいのかなと思ったりしますが、先ほどのお話しからすると、農業や工業などで色々なイベントをされているのであれば、そちらとも連携しながら進めていければ重要度も上がってくるのではないかと。では具体的にどういった連携ができるのかを考えた時に、色々と難しさもあり模索していかなければならないと感じています。

【平井委員長】

今回、発信という言葉が強く盛り込まれていますよね。

【小宮委員】

そうですね。ネットワークを活用して観光客を誘客するのに、色々な角度から発信して頂ければ良いのではないかと思います。

【平井委員長】

発信やマーケティングが強く意識されていますが、誰に向けてどういう風なかたちで発信していくのかを整理していかないと。例えば、インバウンドのように外国人観光客もあるでしょうし、市民に向けて、市内でこんなことができるということを知って頂くことも必要でしょうし。先日、堺市の会議で、世界遺産の登録に向けて色々進めているのですが、その中でオーバーツーリズムという言葉が出てきて、観光客が多過ぎると市民の生活が困るというような話が出ていました。堺市も観光客が素通しており問題も多いのですが、つまりは、四條畷に来ることによってどんなメリットがあるのかということを訴えていく段階にあるのかなと思います。

【堀委員】

観光の捉え方によって違うと思うのですが、皆さんも観光と言えば、従来の観るものがある場所があってというイメージで見ると四條畷は当てはまらないと思うのですが、近年では、観光の定義も広義になっていて、例えば、活気のあるお母さんたちや活気のあるまちでも人は訪れてくるでしょうし、面白い会社見学ができるといったことでも一つの観光として考えることができますので、まず発信の前にどのような情報があるのかを整理する必要があるのではないのでしょうか。あと、資料を見ると緑の文化園の利用が減っているのですが、野外活動センターは逆に増えており、自然に対するニーズは上がっているものの、それに対する体験コンテンツや観光コンテンツが少ないというところで、特に緑の文化園あたりは伸ばしていくことができるのではないのでしょうか。やはり交野市を見ていると若い人がデートスポットとしても利用されていて、そこに何があるのかというと、星のブランコという吊り橋があり、磐船神社では岩を登っていくようなコンテンツがある訳ですね。それに比べて四條畷の緑の文化園では、より自然に近い虫取りやハイキングなどがありますが、そこに新しいコンテンツを加えることができないかというところですが、大阪府が管理している土地で、そこに対して四條畷市にどこまで協力して頂けるかというのがポイントになると思います。例えば、馬飼いの里に関連してホーストレッキングができるとか、そういうことでも非常に面白いと思いますし、モンベルの協力で実施したカヌー体験など、体験を加えることで非常に景色が変わってくると思います。

【小宮委員】

例えば四條畷では今年、続日本 100 名城に選ばれたのですが、これまで 10 年前に日本 100 名城が選ばれ、今年が 10 年目で、4 月に新しく続日本 100 名城に認定されました。これはチャンスではないかと思って話しをしており、色々なイベントが山頂でできると思いますし、人が集まれば販売にも繋がると思いますし、そういったものを活用して、せつかく新 100 名城に選ばれる段階で色々な方々に推して頂いた訳ですから、集客していくことができないだろうかと考えています。

【平井委員長】

そうですね、プロモーションをして人が来る時に、どういう体験ができるかという受入れ体制も重要でありますし、本当に若い人は何でも写真に撮ってインスタに掲載するという時代でもありますので、逆にそういう人達の人気を上手く捕まえられるのではないかともあります。

議論も尽きないところですが、事前に資料を頂いたなかで私の方から確認させて頂きたい点がありまして、今回、初めてビジョンに K P I を用いるということですが、ビジョンは 10 年後を見据えているため目標値も 10 年後の目標値になっています。これまで協議会では P D C A サイクルで検証してきましたが、10 年後の目標までに途中途中をどのような形で検証していくのかと感じています。どこか中間的な数値を設定するなどのお考えはないのでしょうか。

【事務局】

ただ今のご質問に対しては深く議論できておらず、今回のご意見を契機として見直しさせて頂きたいと思いますが、他の計画等との兼ね合いもあり極端に細かくすることも難しいと感じますので、より中間として対外的に理解して頂きやすくする方向で検討させて頂きます。

【平井委員長】

続いて K P I 指標のなかで、連携事業の支援数やセミナーの開催数などのデータ取得方法において、累計と表示されていますが、ここで用いる累計とはどういった意味合いでしょうか。

【事務局】

まず、現在の基準値は実績が無いためハイフンとなっています。また、目標値が各々 10 件、20 件となっておりますが、これは年間件数ではなく、本市の規模を考慮して積み重ねていく件数として、結果、累計として掲載しています。また、セミナーに関して申し上げますと、すべての課題を行政が解決するという考え方ではなく、行政は行政の仕組みのなかで支援を行い、消費者は消費者のなかですべきこと、事業者は事業者のなかでめざすべきこと、これらを上手に組み合わせる必要があります。特に商業、工業に関しては、現状で立ち止まるのではなく、世の中の経済情勢の変化に対して自ら前向きに進むという視点も踏まえ、セミナー等を活用して事業者の皆さんに産学連携の良さや必要性を認識して頂けるような取組みを検討したいと考えています。

これまで、このような取組みが少なかったことも考慮し、10 年後にめざすべき姿として、この取組みを将来の産業振興に結び付けていくとの思いから設定しましたが、表示方法などを検討させて頂きたいと思います。

【平井委員長】

私も他の自治体で事務事業評価委員をしており、そこで出てくる事業に対して継続や中止を意見する訳ですが、何故これを K P I に設定したのかと思うこともあります。わざわざ難しい指標を持ち込んで

検証しにくいというか。やはり検証のしやすさ、実際にその事業が指標にインパクトを与えたのかということが言えないと、なかなか理解が難しいところもありますので、私の知っている部分も含めてお話しさせて頂きたいと思います。

【事務局】

このビジョン素案の作成にあたり、冒頭部分の理念や考え方については文章形式ですが、それ以降は項目を立てたり表形式にしたりするなど、意識的に文字を省略しています。K P Iを設定する過程においても市民視点で分かりやすく見やすいものを作るべきという市長の意向を何度もお聞きしましたので、そういった視点を踏まえて、難しいK P Iを設定するのではなく、内容を見て頂くことで理解しやすいということを意識しております。

【平井委員長】

K P I 指標で測るということ自体はとても大切なことであり、それをしたから良くなったということが見えやすくなるということも重要であると思うのですが、その観点で考えると、K P I 設定のなかで市のホームページアクセス数が設定されており、市のホームページと言っても多くの情報が載っている訳で、例えばプロモーションに役立ったということ全体アクセス数だけで判断できるのかということもあります。これについて、プロモーションに関する部分で設定できないのだろうかと感じますが、その辺りの議論はありましたか。

【事務局】

アクセス数のカウント測定方法について、色々と制限がある旨をホームページ担当から聞いており、特定ページへのアクセス数を測定できないという課題から現状の表記とさせて頂いております。

ただ、頂いたご意見を踏まえ、もう一步踏み込んだ指標として掲載が可能か否かを検討し、可能であれば、その表示方法について皆様にも分かりやすい形で設定させて頂きたいと思います。

【堀委員】

もう一点ですが、アクセス数は別として、内容部分において市のホームページは平等性が求められるなかで、観光分野において特別に深みのあるページ作りができるのだろうか、アクセスしてもらえるのだろうかと思ったり、そこは大切な部分でもあります。そういえば、例えば文化観光協議会など民間の力を活用する形で、どこか第三者へ振り分けていくことで特色あるホームページ作りに繋がりますし、観光コンテンツとして魅力のある、見て頂ける良いものになるのではないのでしょうか。

【事務局】

ご意見の通り、行政が担うと広く公平にする必要性が求められるため、面白さや中身の濃さでいうと全体が揃っていることが前提になってしまうと思います。そのようなことから観光、商業、工業や農業も含めて、市とは別にどこかでそのような部分をアピールして頂けるような環境が整うようであれば、他市との差別化に繋がる一つの要素になるのではないかとはいえますし、そういった方法を取り入れることで、見てもらえる機会を提供することに繋がるという考え方も必要かと思ったりします。

【平井委員長】

四條畷を発信するという意味合いで、プロモーションしたからこういう結果になったというのがK P I の意義でもあります。それが市役所のホームページであればもちろんそれが良いのですが、単に別の

手続きからページアクセス数が伸びたというのではそれに替えることはできないので、この先の将来において明確に説明する責任が問われるでしょうし、正しく説明できる仕組みを整えておかないと、何故この数値でこの結果が言えるのかということになり兼ねないため、ご留意いただきたいと思います。

【平井委員長】

その他、この場で押さえておきたいことなどはございませんでしょうか。

無いようでしたら、この後、事務局からも説明があるかと思いますが、近々、再び皆様にお集まり頂くことになるため、その件も含めて、次の次第に移りたいと思います。

また、本日のご意見を事務局で取りまとめて頂き、素案（案）から素案になっていくこととなりますが、これで素案として取りまとめていくということでご異論はございませんでしょうか。

（委員了承）

それでは、事務局の皆様には、どうぞよろしく願いいたします。

【平井委員長】

それでは次第2「その他」でございますが、何か案件はございますか。

では、事務局よりお願いいたします。

【事務局】

冒頭のご説明でも申し上げましたが、今後の予定についてご説明いたします。スケジュールのなかで9月に第2回協議会を予定させて頂いております。その間、8月18日に議会特別委員会でご意見を頂き、その結果を踏まえて9月初旬に協議会の開催を想定しております。改めて時期が近づきましたら皆様あてに調整を図らせて頂きたいと考えておりますので、現時点では9月の上旬にお集まりいただくことをご承知いただきたく、よろしく願いいたします。また、次回協議会での議論を踏まえて原案とし、その後、パブリックコメントに付すこととなります。昨年度のパブリックコメントでは意見がございましたので、より多くの方々にご覧いただき、併せてご意見も頂戴したいと思っております。皆様におかれましては各団体へのご周知等、ご協力をお願いいたします。

【平井委員長】

私、個人的にもパブリックコメントに意見が無いということが気になっており、愛の反対語は憎しみではなく無関心であるという言葉にもある通り、まさに市民の方々にも関心を持って頂きたいと思いますので、委員の皆様にもご協力をお願いしたいと思います。

他に何かございませんでしょうか。

それでは、第1回の協議会を終了させて頂きます。

皆様、お忙しいところをありがとうございました、次回もよろしく願いいたします。